

【学生の受入れについて】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答（150字程度）	担当部署
Q1 大学を選ぶときに、どの程度アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）を参考にしましたか。また、大学選びでは、何を一番重視されましたか。	1	アドミッションポリシーはあまり参考にしておらず、自分の学力で入学でき、交通の負担がかからない大学で、教員免許が取得できるかという点をメインに考えて大学を選んだ。しかし、入学してから、文学だけではなく日本語教育等を含め、幅広く学びたいという学生がたくさんいることがわかり、アドミッションポリシーと関係していることに気づいた。アドミッションポリシーより、オープンキャンパスに行ったときから、静かな校風が気に入っており、のびのびとした雰囲気、高校から急に環境がガラッと変わるというよりも、どちらかという親しみやすい環境である点に惹かれた。	オープンキャンパスで大学の良さを知ってもらうことができうれしく思います。なお、アドミッションポリシーについては、オープンキャンパスの学科紹介の中で、各学部長・学科長から説明したり、各種要項等にも記載したりしていますが、高校生の皆さんにとってはアドミッションポリシーよりも大学の雰囲気や資格取得等に関心があるようです。今後は、本学ではどのような点を重視して教育しているか、また、どのような学生を育てているのかについても、高校生の皆さんに伝えていきたいと思います。	入試広報室
	2	私は、センター試験利用入試後期で入学しているため、アドミッションポリシーについては全く参考としていない。大学選びでは、歴史文化学科に私が学びたかった中世を専門としておられる准教授の方がいたため入学を決めた。	学びたい内容の点から志望していただいたとのこと、ありがとうございました。ご意見を参考に、大学入学共通テスト利用入試での受験の方にもアドミッションポリシーを知らせ、大学選びの参考にさせていただけるように、有効な方法を検討していきます。ご意見ありがとうございました。	
	3	アドミッションポリシーは見ることがないです。入試での面接試験がない限りあまり見ないかもしれません。大学選びでは一番は保育士・幼稚園教諭の資格を取ることが出来るか、次に自宅からの近さで選びました。	取得したい免許・資格と通学の利便性の点から志望していただいたとのこと、ありがとうございました。ご意見を参考に、面接のない試験での受験の方にもアドミッションポリシーを知らせ、大学選びの参考にさせていただけるように、有効な方法を検討していきます。ご意見ありがとうございました。	
	4	あまり参考にしていません。自分の学びたい分野の学部があることと、通学時間を重視しました。	学びたい分野と通学の利便性の点から志望していただいたとのこと、ありがとうございました。ご意見を参考に、アドミッションポリシーを知らせ、大学選びの参考にさせていただけるように、有効な方法を検討していきます。ご意見ありがとうございました。	
	5	「特別支援教育に高い関心があり、将来それに携わる意志を持ち、この領域を積極的に学びたいという意欲を持っている」ことを一番重視しました。特別支援教育専攻というだけに専門的に深く学んでいくので特別支援学校の先生になりたいという思いを強く持って受験に向かいました。	アドミッションポリシーを十分に理解し、強い思いをもって受験していただいたとのこと、ありがとうございました。受験を考えている方が理解と思いをもって受験していただけるように、アドミッションポリシーを知らせ、大学選びの参考にさせていただけるように、有効な方法を検討していきます。ご意見ありがとうございました。	
	6	アドミッションポリシーはほとんど参考にしなかった。心理学が学べる学科の有無を一番重視した。	学びたい分野の点から志望していただいたとのこと、ありがとうございました。ご意見を参考に、アドミッションポリシーを知らせ、大学選びの参考にさせていただけるように、有効な方法を検討していきます。ご意見ありがとうございました。	
	7	スポーツ健康学科のアドミッションポリシーである資質の中にスポーツを通して社会に貢献しスポーツの普及や健康運動の指導、次世代の健康づくりを積極的に学ぶというところがありこの「スポーツを通じて社会に貢献」することは現代では盛んにおこなわれているようになりこの参考にしました。また、大学選びで一番重視した点は自分の将来したいことの学びが行えるところでした。大阪大谷大学のスポーツ健康学科では体育の教員を目指す学生とスポーツ指導を目指す学生が同じところで学び合い両方の知識を得れるところに興味がわきました。	アドミッションポリシーを十分に理解し、それを参考にして受験していただいたとのこと、ありがとうございました。将来像と共同的な学び合いの視点から興味をもっていただいたことにも感謝いたします。受験を考えている方が理解と思いをもって受験していただけるように、アドミッションポリシーを知らせ、大学選びの参考にさせていただけるように、有効な方法を検討していきます。ご意見ありがとうございました。	
	8	TAや学生に対してのアシストがあるかどうかを重視しました。	No.11で対応	
自由記述	9	アドミッションポリシーをサイトで自分の学科のものを見直したが、「協働」というワード通り、実際にグループワークなどが積極的に行われていると感じた。	高い評価をいただき、大変ありがたい思いで受けとめています。今後も、様々な可能性を考慮した講義実践に努め、現状に満足せずに歩みを止めない改善に学科をあげて取り組みたいと考えています。	文学部 (日本語日本文学科)
	10	「令和元年度自己点検評価書」P3下から4行目についてのことである。私が入学した直後(1回生)のときには、基礎学力測定テスト「PROG」を毎年実施するとなっていたが、現状は私の場合1回生の時しか実施されていない。普段の単位取得に関する成績だけでは、正確性に欠けており、十分な学業成績の追跡調査が行われているとは言い難いと思われることから、将来計画に定められた事項をしっかりと実施してほしい。	PROGについては、毎年ではなく、4年間の中で2回（入学時と3回生の秋頃）実施しており、入学時に調査した汎用的能力が2年半後にどれだけ伸長したかを測り、それを就職活動にどのように活かしていくことができるのかを確認することができます。なお、一般教養的や専門的な知識や技術は、普段の学業成績で測っており、汎用的能力については、キャリア教育科目等で社会に出てから役立つ力を身に付けてもらえるようにしています。ただ、それだけではうまくいかないこともあると考えられるので、その場合は、例えば、学修行動調査の結果を踏まえ、アドバイザー教員と学生の皆さんとで相談して学修計画を立ててほしいと思えます。なお、今後は、それをさらに深めていき、アドバイザー教員と学生の皆さんがより密な形で学修計画とその実践をモニタリングすることで、4年間（薬学部は6年間）でしっかりと社会で活躍できる能力（専門的なもの・汎用的なもの）を身に付けてもらいたいと考えています。	教育・学修支援センター
	11	アドミッションポリシーについてはあまり目を通しておらず、早期臨床体験ができる点と近所で薬剤師としての勉強をしてきた先輩に教えてもらえるTA等、学生に対してアシストがあるかどうかという点を重視して大学を選んだ。また、大学の広告については、入学前までは何処にあるのか気づかなかつたので、もっと目につく所に設置したほうが効果的であると思った。	薬剤師を目指している学生の皆さんにとっては、薬剤師国家試験へのサポートを重視していることが、改めてよく分かりました。また、広告については、今までは電車の中吊り広告が中心でしたが、今年からデジタル広告（動画等）へと移行しており、設置場所も大阪市内の主要駅や繁華街を中心に設置しています。今後は、本学の存在と良さを多くの高校生に知ってもらえるように努力していきます。	入試広報室

【学修支援について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q2 「Moodle」や「tani-WA」といった本学の学習支援システムは、利用しやすいものになっていますか。また、教員によるオフィスアワーは活用していますか。	12	「Moodle」はあまり授業では活用していない。教職関連のファイルがMoodleで上がっていたりするが、タニワメインのため、気づきにくい。タニワは凄く利用しやすいが、通知がメールに二件ずつきたりすると、少し困る。オフィスアワーは活用したことがない。オフィスアワーが活用しにくいのではなく、授業の質が良いため、その時間内で十分理解ができる。	tani-WAやMoodle等の学習管理システム(LMS)については、一長一短があり、それぞれの長所が活かされるように使い分けされています。利用のしやすさに個人差があると思いますが、利用方法がわからない場合には、教員等に質問をしてください。	教育・学修支援センター
	13	「Moodle」や「tani-WA」については、比較的に利用しやすいと思われる。教員によるオフィスアワーも活用はしている。コロナ禍の緊急事態宣言後のオンライン授業時においても、学内メールにてやり取りをすることができていたため、助かる部分も多かった。	学生と教員は対面でコミュニケーションをとることが最も望ましいのですが、それが叶わない状況であっても、メールやLMSを利用してのコミュニケーションの確保は大学の責務であると考えます。	教育・学修支援センター
	14	基本的には全体的に使いやすいと思います。ですが、tani-waは少し使いづらい部分があります。学生に授業動画などが送られてき、通知は来るのですが、「開く権限がありません」といわれ開けず、担当教員にメールをしなければならぬということが多々ありました。他にもtani-waのコメントや掲示板の機能も少し使いづらい印象があります。掲示板や、コメントに何かを書き込むと先生に通知が行くのかどうかは分かりませんが、圧倒的にメールよりも返信が遅いです。しかしメールではなく、掲示板に質問は書き込むようにと決めている先生も多いので、少し使いづらい印象があります。オフィスアワーは使ったことがありません。1・2回生の頃は授業が詰まっておらず、先生方が指定する時間は空いておらず、利用することが出来なかったため、1度も利用しませんでした。しかし授業後などに質問はできていたので、そこまで困ったことはありませんでした。	・tani-WAの掲示板への書き込みについては、メールとは異なり教員側が気づくのに遅れるケースが考えられます。教員側で気をつけるべき事項ですが、数日経過しても返事がない場合はメールで確認をしてください。 ・オフィスアワーはシラバスにも掲載されており、予約なしに1対1で教員とコミュニケーションがとれる制度なので、ぜひ積極的に活用してください。オフィスアワーが自身の時間に合わない場合は、メールやLMSを活用するか、予約した上で個人研究室を訪ねるようにしてください。	教育・学修支援センター
	15	「Moodle」は少し分かり辛いです。「tani-wa」は比較的に分かりやすいです。パソコン版でも課題が総合で何個溜まっているのか見れたら分かりやすいと思います。あまり活用したことがありません。	No.20で対応	教育・学修支援センター
	16	コロナ禍になりこれらを使って課題や情報収集をすることが多くなったが「Moodle」や「Moodle2」、「tani-WA」と大切な情報がどこに入っているのか管理するのが困難になった。	No.104で対応	教育・学修支援センター
	17	Moodleは利用しにくいと感じるが、tani-WAは利用しやすいと感じる。前者は、使いたいコースに行きたいがどのコースカテゴリにあるのかが分かりにくく、探すのに時間がかかった。この点は、Moodle2で改善されていると感じる。一方、後者は時間割のように表示されている上、お知らせや課題などがある場合はアイコンが赤色になるため、非常に分かりやすい。ただし、中には公開されたことをメールで送らないように設定している授業もある。初回授業開始前の重要なアンケートを逃してしまったというケースもあるため、重要度の高い課題やアンケートなどはメールを送るようにしていただくと非常にありがたい。なお、オフィスアワーはほとんど利用していない。質問がある場合、オフィスアワーの日時まで待つよりも、メールで質問の方が早いかつ使いやすいと感じるためである。	他の学生も同様のことを感じていると思うので、人間社会学科の教員へ問題を共有し、オフィスアワーの件も含め、今後の取組に反映していきたい。	人間社会学部（人間社会学科）
	18	「Moodle」や「tani-WA」は比較的に利用しやすいのではないかと思います。理由として「Moodle」や「tani-WA」は携帯などがあればすぐに課題を確認したり、オンデマンドでの授業を受講することができます。そういった手軽な面や自分のメールと連携することができるので連絡事項などを見落とすことは少ないように思います。また、オフィスアワーは対面授業を行っていた際は活用することはなかったのですがオンデマンドになり「tani-WA」を使って質問でき以前よりは活用するようになりました。	LMSを十分に活用するとともに、今後もLMSを利用して教員とコミュニケーションをとってください。対面授業に戻った場合には積極的にオフィスアワーを活用してください。	教育・学修支援センター
19	tani-waはofficeと連動していて使いやすいものとなっていると思います。しかしMoodleは接続が悪く正しく入力していてもダメな時があるので少し使いづらい面があると思いました。	本学のMoodleは、ややレスポンスが遅い場合があるようです。文章などを入力する際には、Wordなど別のソフトで文章を作成してからコピーすると、やり直しの手間がやや軽減されると思います。	教育・学修支援センター	
自由記述 その他、学修支援について、気づいた点等があれば記入してください。	20	「Moodle」は少し分かり辛く、「tani-WA」は比較的に分かりやすい。パソコン版でも課題が総合で何個溜まっているのか見れたら分かりやすいと思う。オフィスアワーについては、あまり活用したことがなく、非常勤の先生の連絡先が分からない場合が多い。また、学生課の職員の愛想が良くないので行きにくい。	Moodleやtani-WAについては、使い方を分かりやすく説明した資料等を作成し、学生の皆さんへ提示していきたいと考えています。また、非常勤の教員については、メール等での連絡が中心となってしまうため、tani-WAのコメント欄や大学のメールアドレス※を活用してください。なお、メール等でも連絡が取れない場合は、教務課へ問い合わせをしてください。 ※メールソフトの宛名に氏名を入力すると大学のメールアドレスが入るように設定されています。ただし、入力する際には、学生との同姓同名に注意してください（学生は「u+学籍番号@」）。	教務部
			学生課の窓口対応については、課長を通じて担当者へ指導していきます。なお、事務職員については、今年度より外部団体主催のSD研修への参加も始めたところであり、引き続き、SD活動の充実に取り組み、職能の向上に励んでいきます。	事務局長

【キャリア支援について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q3 キャリア教育科目やインターンシップ等、大学から提供されているキャリア教育支援は、自分が希望している内容となっていますか。また、キャリアセンターや教職教育センターは、気軽に足を運び、進路等について相談できる場所となっていますか。	21	教職の科目しか取ったことがないが、実際の教採の問題に沿ったものだと思う。自分は教職を目指しているが、日文の教職を目指す子たちも含めてあまり活用していないように感じる。何が設置されていて、どういうときに活用するとよいか、などの情報が入りにくいからだと考える。	キャリアセンターでは、これまでもtani-WAにコースを設けて、学生に情報発信をしてきましたが、講座案内が中心でした。指摘いただいた「何が設置されているか」や活用方法など、キャリアセンターそのものについての説明も発信するようにします。 教職教育センターは、学生のみなさんが活用しやすいよう、今まで行ってきた本センターからの発信に加え、学部・学科のゼミの先生方からも周知していただく等、情報発信に努めます。	キャリアセンター 教職教育センター
	22	私は履修登録の関係上、正課のキャリア教育支援を受けることは難しいです。なので、正課外のキャリア教育支援の実施は非常に助かっています。内容においても、インターンシップ準備講座など充実した情報を提供して頂けている他、ナビ会社さんによるお話もあり、分かり易いものとなっていた。キャリアセンターや教職教育センターには何度か足を運び、相談をしたことがある。しかし、周囲の学生の話や話を聞くと、活用している学生は少ないと感じる。将来計画にも挙げられていたように、学生に対する周知の必要性があると感じた。	ご指摘の通り、正課外のキャリア支援行事の中には、様々な事情から正課のキャリア教育科目を履修できなかった学生向けのためのものが用意されています。これについても、まだ伝わっていないケースもあるかもしれませんが、tani-WA、ガイダンスなどを通じて発信していきたいと思えます。 教職教育センターは、コロナ禍の中で、現在正課外の講座等の対面の開催がなかなかできずにいますが、オンデマンド講座の実施等今後も実施していますので、今後もぜひ参加してください。	キャリアセンター 教職教育センター
	23	私たちの代のインターンは実習の前に行くことが出来たため、とてもためになりました。キャリアセンターや教職教育センターに行く機会は多いわけではないですが、参考書を借りるときなど目的があると行く感じがします。キャリアの行事で就活メイク講座や証明写真の撮影など、実用的なものが多いのでありがたいです。キャリアや教職センターの方はすごく丁寧で気軽に足を運びやすいと思います。	「キャリア」、「就職」だけなどとあらたまることはなく、もっと気軽に将来のことについて話したい、社会のことを教えて欲しいなどで、「立ち寄り」いただけるようにしていきたいと思えます。 コロナ禍の中で、教職教育センター主催のキャリア科目や講座がオンラインやオンデマンド、対面でも大教室を使用するようになり、なかなか学生のみなさんがセンターを訪れてくれる機会が減っているのは事実ですが、なるべく多くの学生のみなさんが気軽に活用してくれるような雰囲気づくりに今後も努めたいと思えます。	キャリアセンター 教職教育センター
	24	なっているのではないかと思います。教職教育センターはとても迎えてくださる雰囲気も良く、立ち寄りやすい場所です。キャリアセンターは利用した事がないです。	教員を目指す学生は教職教育センターを主に利用されると思えます。もし民間企業や公務員も併願するときにはキャリアセンターを活用して下さい。 教職教育センターは、今後も学生のみなさんに気軽に活用していただけるような雰囲気になるよう努めたいと思えます。	キャリアセンター 教職教育センター
	25	教職教育センターのセミナーに参加した際、全日参加は出来なかったがタニワにあげてくれていたのでそれで学習することができたので良かった。	多くの学生の皆さんが学習できるようなオンデマンド講座等を今後も工夫し、参加していただければ嬉しいです。	教職教育センター
	26	希望する内容となっていると感じている。しかし、足の運びやすさについては、正直運びにくい。ゼミナールの一環で見学に行ったときにやっとな抵抗感がなくなった。就活＝堅い、厳しいというイメージがあった上、前向きに取り組むことができなかったため、抵抗感があつたと思う。就活に対する意識の改革や、ゼミナールで見学会を行うなどを行うと、通いやすくなる人が増えるのではないかと考える。1・2年生でも通いやすい雰囲気にしてもらいたい。	毎年、キャリアセンターが「行きにくい」「堅苦しい」との意見があがります。しかしながら、教員と一緒に一度見学することで、少しでも抵抗感が軽減されるのであれば、現在、1年生の「キャリアデザイン」の中で、キャリアセンター、教職教育センター及び英語教育センターへ引率していますが、それ以外に、2年生・3年生についても、各センターを案内する機会を設けることを検討したいと思えます。	キャリアセンター
27	大学から提供されているキャリア教育支援は就職活動の支援、教員採用試験対策プログラムなどさまざまな支援が行われており、職員の方からのお話を伺ったり、対策プリントが頻りに配布されていたりと支援が手厚く希望している内容にも当てはまっています。	キャリアセンターに要望をどんどん寄せてください。キャリア教育科目の授業時にも学生のニーズを意識しています。また、学外の企業、就職支援会社などと積極的に情報交換をしています。それらを新たな支援やサービスに繋げていきます。 教職教育センターも、多くの学生の皆さんへの支援を続けていきたいと思えます。	キャリアセンター 教職教育センター	
28	まだ就職が見えずキャリアセンターは利用したことがないのでよくわかりません。	フレッシュャーズ・ミーティング、tani-WA、キャリア教育科目などを通じて、キャリアセンターの理解と利用を促進していきます。学生のみなさんには、是非キャリア教育科目を履修していただければと思います。	キャリアセンター	
自由記述 その他、キャリア支援について、気づいた点があれば記入してください。	29	他のキャリア支援科目を取っている友人の話や話を聞くと、ZOOMでの授業であったこともあり「就職」になかなか現実味が持たず、その科目にもあまり意味が見出せないという感じであった。1年生、2年生から、就職に前向きに、もっと身近に感じられる科目やイベントがあるとよいと感じる。自分のゼミの先生は、卒業生の具体的な進路や就活の様子を教えてください。そういった情報が入りやすい。また、先輩方の話を聞く機会があればよいと思う。	キャリア教育科目には、学生生活系、仕事観・職業観系、社会人基礎力系、就活実践系の科目があり、就活実践系の科目を3年生でいきなり履修すると戸惑うことになると思うので、1年生のオリエンテーションにおいて、1年生から履修するように勧めたい。また、先輩の話や話を聞く機会も設けるように検討したい。	キャリアセンター
	30	企業さんを招待して、企業さんの目線から学生に対して就活関係の話をして頂ける機会を増やしてほしいと感じる。	文学部、教育学部、人間社会学部の3年生に担当している「採用研究（民間企業）」では、様々な業界の企業の人事担当者をお招きし、講演をいただきます。また、学内で合同企業説明会も実施しています。是非、利用してください。	キャリアセンター
	31	インターンシップに行った後の報告書を紙で提出しないといけない点が億劫である。特に、最近はオンライン授業ばかりで登校する機会がないため、提出への面倒くさがりが増える。Wordファイルにしてメールで送信することができれば、改善されるのではないかと感じる。 来社証明書について、大学からの正式な書式がないという話を聞いたことがある。過去には、それがなかったせいで授業を欠席扱いにされたケースがあったらしい。来社証明書の正式な書式を用意してほしいと感じる。	コロナ禍で登学機会が減少している状況をふまえ、大学ホームページに掲載しているインターンシップ報告書の書式を従来のPDFに加えWord、Excel版も追加し、記入後にメール添付して提出できる案内も付記しました。 「来社証明書」については、他大学の事例等を参考に書式の提供を検討します。但し、本学では公欠制度がありませんので、授業の出欠扱いについては証明書があっても担当教員の判断により欠席として取り扱われることもあり得ます。学生のみなさんも可能な限り、授業の出席も考慮しながら就職活動のスケジュールを組んでください。またキャリアセンターで来社の事実を調査したり、来社証明書発行の仲介を行うことまではできないことはご理解願います。	キャリアセンター
	32	しかし、気軽に足を運べるかという点も難しいと思えます。なにかきっかけがあれば足を運ぶことがあると思えますが私の学生の周りでも足を運んでいる学生は少なく、何かしらのイベントや対策プログラムの内容を学生たちに発信することがよいのではと感じます。	学生のみなさんが気軽に足を運んでもらえるよう、プログラム等のお知らせの発信を工夫し、周知に努めたいと思えます。また、気軽に活用してもらえるような雰囲気になるよう今後も努めたいと思えます。 文学部、人間社会学部の1年生担当のキャリアデザイン授業では、キャリアセンター・ツアーをはじめ、教職教育センターや英語教育センターのツアーをしています。他の機会でもツアーを企画したり、tani-WAなどを通じてイベント・講座の情報を発信していきます。	教職教育センター キャリアセンター

【学生サービスについて】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q4 奨学金等の経済的な支援や課外活動におけるの支援・指導は、適切であると感じていますか。	33	奨学金は、連絡がこまめなため、誤って継続し忘れなどがなくなり、とても助かる。	新型コロナウイルス感染症により以前のように対面での説明会を開催することが困難であるため、配信等による説明となっておりますが、できる限りタイムリーに、簡潔なレジメと分かり易い説明を心がけて作り上げているつもりです。今後もより理解しやすい資料と解説でその時々に対応した形態で説明会を行っていきたくと考えています。	
	34	<p>私自身は、奨学金等の経済的な支援に関して適切であると思う。課外活動におけるの支援・指導についてはいくつか意見をさせて頂きたい。一つ目は、課外活動願い等に関する提出書類のことだ。コロナ禍である現在の状況では、活動希望日5日前までに三つの書類を学生課に基本的には直接提出することとなっている。課外活動団体が活動する上で、この書類の提出は大きな妨げとなっている。コロナ禍において課外活動団体内で十分な引継ぎが行われておらず、書類の書き方や提出方法が分からないや、書類制作の負担増加によるモチベーションの低下がある。これらの現状を解決する方法として提案させて頂きたいのが、オンライン上での書類提出である。Web上でフォームを制作し、そこで課外活動願いを提出させることで、課外活動実施へのハードルを下げ課外活動団体の活性化を促すことができる。コロナの影響もあり、社会的に書類をデータとして提出する動きが活発化している状況を考えても、時代にあった方法といえる。</p> <p>二つ目は、学内での課外活動を実施する際に、付き添いの教職員がその場にいないと活動できないことである。顧問の先生が忙しく付き添いの教職員をたてられないことで活動が行いづらいつい現状がある。この問題は、課外活動団体のモチベーション等の低下につながっている。学内の活動において、付き添いの教職員がいないといけない理由が明確になっておらず学生は困惑している。学生からの目線だと、教職員が来ることで人数が増え、感染リスクを拡大させているようにしか思えない。この現状を解決する方法としては、学生に対して納得のいく説明を行うか、学内の活動においては教職員の付き添いを不要にするという対応が求められると考える。</p> <p>三つ目は、補助金の支給に関してのことだ。課外活動団体の中には、補助金が不足している団体と補助金が大きく余ってしまった団体がある。補助金が不足してしまっている団体の中には、顧問の先生が活動費を自腹で支払っている状況もみられる。また、補助金が余っている団体は、使い道に困り本当に必要なものか不明なもの無理やり理由つけて買っているところがあるという話を聞く。補助金については本当に必要な課外活動団体にきちんといきわたるようにする必要があると感じられる。補助金全体を見直し余剰が出た場合は、グラウンドの整備費や拡張、体育館の備品や管理にかかる費用などにまわすことで、課外活動団体のサポートにつなげるべきと感じる。</p> <p>四つ目は、リーダーズトレーニングについてだ。現在リーダーズトレーニングは年に一回の行事となっている。しかし、コロナ禍の活動制限による部員のモチベーション低下、オンライン上のやり取りが増えたことによるコミュニケーションの不足、活動ができなかったことによる経験不足など課外活動団体は現在大きな問題を多く抱えている。これらの悩みは、私たち委員会がリーダーズトレーニングを企画・運営していく中で課外活動団体の幹部の方向けに取ったアンケートの結果である。課外活動団体のリーダーの方々、オンラインでの活動の仕方、部員をまとめる方法、コミュニケーションの取り方などのスキルを求めている。課外活動団体の活性化は大学の活性化へとつながり、将来的には入学生の増加と質の向上や社会で活躍することのできる人材の輩出に繋がる。よって私は、年に一回のリーダーズトレーニングではなく、最低でも年に二回のリーダーズトレーニングが必要であると考えている。</p> <p>以上にあげたことより、課外活動団体に対して今よりもしっかりとした対策をとることが必要である。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっている中、特に大きなクラスター等が発生させることなく安全に課外活動を実施することができているのは、皆さんがしっかり感染予防対策を施していただいているおかげです。ありがとうございます。</p> <p>コロナ禍において皆さんのリスクを極力減らすために、書類提出はメールでも受付しています。他に不安なことがあればいつでも学生課までご相談ください。</p> <p>活動時の顧問付添について、部員の皆さんはできる限りの感染予防対策をさせていただいているかと思いますが、気が緩んで危険な行動をしないよう、監督・管理者の付き添いをお願いしています。現状、監督・管理者の目が届かない場所で、リスクのある行動をとっているものも見受けられますので、その時の感染状況により、活動条件を更新しています。</p> <p>クラブ補助金の支給について、補助金額は、前年度の支出実績に伴い決定しています。そのため、余剰金が発生したクラブは減額し、補填額が高いクラブは増額して配分しています。また、余剰金の再配分は年度の関係から出来かねます。</p> <p>リーダーズトレーニングについては、都度適切な方法で行い、課外活動支援ができればと考えています。ご意見のように、リーダーズ・トレーニングを年2回開催できれば非常に活性化に役立つことでしょう。皆さんのモチベーションも大きく変わり、個々の参加意識や集団としての協力体制も変革していきけるのでは期待できることでしょう。また、トレーニングを受講するだけではなく、開催後の参加者の理解度や各団体部員への伝達・波及・浸透度を確認する機会を設けて、ある程度の成果やデータを集約させていくことも重要といえますので、そのあたりも活動団体の皆さんが、実施後こそ重要視し、向上していける手段を講じていただければ意義あるトレーニングになると思います。時期や規模や方法、さらに予算などいくつかの課題があり、すぐに実施できるかは検証や協議が必要ですが、実現できれば理想的であるといえるでしょう。詳細は委員会の方々とも相談しながら行いたいと思います。</p> <p>ご理解とご協力の程、よろしく申し上げます。</p>	学生部
	35	奨学金の継続など、しっかりと説明会を開いていただいているため困ったことはありません。	新型コロナウイルス感染症により以前のように対面での説明会を開催することが困難であるため、配信等による説明となっておりますが、できる限りタイムリーに、簡潔な説明書類と分かり易い説明を心がけて作り上げているつもりです。今後もより理解しやすい資料と解説でその時々に対応した形態で説明会を行っていきたくと考えています。	
	36	コロナで学校を活用していない間も学費の免除などがなかったのが残念でした。レジュメのコピーやパソコンの購入など30,000円ではとても足りません。	「3万円では足りない」はおっしゃる通りだと思います。皆さんに遠隔授業のための準備を強いたため、少しでもその足しにしてもらいたいとの思いから「教育・研究支援金」として3万円を支給しました。教室は使わなくても維持管理費がかかり、コロナ対応のための新たな出費もあり、学生の皆さんへの支給はこの金額になったことをご理解ください。	学長
37	はい。日本学生支援機構の奨学金を借りているので大学に通うことができます。	奨学金をうまく活用して充実したキャンパスライフや将来の夢の実現に役立っていただければ幸いです。新型コロナウイルス感染症により説明会は配信で実施していますが、できる限りタイムリーに、より理解しやすい資料と解説でその時々に対応した形態で説明会を行っていきたくと考えています。		
38	奨学金等の経済的な支援については利用したことがないため、適切かどうかは正直、判断できない。課外活動の支援・指導に関しては、適切であると考えている。	<p>奨学金はうまく活用して充実したキャンパスライフや将来の夢の実現に役立っていただくためのものです。今後利用する機会があれば、現在は説明会を配信で実施していますが、できる限りタイムリーに、より理解しやすい資料と解説でその時々に対応した形態で説明会を行っていきたくと考えています。詳細は学生課にお尋ねください。</p> <p>コロナ禍において皆さんのリスクを極力減らすために、書類提出はメールでも受け付けています。他に不安なことがあればいつでも学生課までご相談ください。</p>		
39	奨学金については、支援、指導において申し分ないと思う。支援の方は第一、第二とさまざまな方法があり実際に借りている私からしたら奨学金のおかげで経済面を気にせず大学生活を送れている。また、奨学金の方法はとても難しく初めて借りるとなるとややこしく間違えることがあると思うが、丁寧な説明会があるためわかりやすく安心して借りることができた。しかし、課外活動における支援は不十分に見える。まず課外活動を行う際に書類を出さないといけないがコロナ禍のせいもあると思うが、出さないといけない書類がコロコロ変わりとても分かりにくい。他にも急遽、課外活動における方針が変わったりなどいろいろとややこしいところがみられる。	奨学金については、説明会の開催等、学生の皆さんへの支援が充分に行き届いているようである。また、キャンパスWEBマガジン「凜ウェブ」を開設し、アプリをダウンロードすることにより、直接、学生の皆さんに様々な情報を届けられるようにもなった。しかしながら、課外活動については、コロナの感染状況を踏まえ、危機対策会議で活動方針を検討していることから、その方針に伴い提出書類も変更することもある。学生の皆さんには、ご不便をかけているが、感染予防が第一と考え、学生の皆さんの命、ご家族の命を守るためにも必要な書類であると理解してほしい。また、学内でのクラスター発生予防のため、活動を制限している点についても、申し訳なく思う。ただ、書類を提出してもらうことにより、活動ができるようになっており、今後は、少しでも書類提出に係る作業を簡素化できないか検討していきたい。	学生部	
40	適切だと思います。	新型コロナウイルス感染症により以前のように対面での説明会を開催することが困難であるため、配信等による説明となっておりますが、できる限りタイムリーに、簡潔な説明書類と分かり易い説明を心がけて作り上げているつもりです。今後もより理解しやすい資料と解説でその時々に対応した形態で説明会を行っていきたくと考えています。		

質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q5 保健室や学生相談室は、健康等に不安を感じたときに、それらは気軽に足を運べる場所となっていますか。	41	あまり行かないので、場所も正直に言うと曖昧である。大学の各所にソファなどがあるため、体調が優れてない場合、そこで済ませている友人もいた。	健康診断の際に保健室の場所や利用方法について分かりやすく解説したパンフレットをお渡しできたらと思っています。	学生部
	42	私は、学生生活の中で一度も保健室や学生相談室を利用したことはない。しかし最近、他の学生が体調不良となり保健室に行くことを勧めましたが、保健室の場所が分からず調べた。おそらく、他の学生も保健室の存在は知っているが、それが二カ所あることやその場所については分からない人が多くいるのではないかと思う。そういった点では、気軽に足を運べる場所とは言い難いと思う。	健康診断の際に学内に二カ所ある保健室の場所や利用方法について分かりやすく解説したパンフレットをお渡しできたらと思っています。	
	43	志学館の方も常時いていただけるとより便利ではあると感じます。しかし、別に今の状態でも不便を感じることはないです。	学内に二カ所ある保健室のどちらかは必ず在室しています。ご不便をおかけしますが、不在の場合はもう一方の保健室に移動していただくか、ご連絡してください。	
	44	どこにあるのかもわかりません。	健康診断の際に保健室の場所や利用方法について分かりやすく解説したパンフレットをお渡しできたらと思っています。	
	45	どちらも健康等に不安を感じた時に利用したことはないが、健康診断等で利用したときには丁寧に対応してもらい安心できた。	健康等に不安を感じた時には気軽に保健室をご利用ください。	
	46	気軽に足を運べる場所となっている。しかし、志学館の保健室と20号館の保健室とでは、距離が極端に離れていると感じる。大学の敷地の真ん中の食堂あたりにもあったら、より便利になるのではないか。	大学の敷地が広いので、2ヶ所に設置しているが、キャンパス整備によって、ゆくゆくは保健室を1つに統合し、学生課・アクセスルーム等の学生支援に関する施設とまとめて配置する計画をしており、より学生の皆さんに便利に使ってもらえるようにしたいと考えています。	
	47	気軽に足を運べるとはいえませんが、学生たちの支援には欠かせないものだと感じています。学生相談室も目立たない場所にあるため他の学生に見られないという工夫がされており、保健室はまだ行ったことがないですが2カ所あるため早急な対応に応じれると感じました。	学内に二カ所ある保健室のどちらかは必ず在室しています。ご不便をおかけしますが、不在の場合はもう一方の保健室に移動していただくか、ご連絡してください。予約の必要はありませんので、いつでも気軽に保健室をご利用ください。	
	48	健康面や精神面に不安を感じたことがなく利用したことがありませんが寄りづらい場所ではないので気軽に足を運べると思います。	健康等に不安を感じた時には気軽に保健室をご利用ください。	
自由記述 その他、学生サービスについて、気づいた点等があれば記入してください。	49	奨学金の連絡などは、学生課の方々に感謝しているが、正直に言うと、学生課の方で一部対応が威圧的な人がある。期日通りに奨学金の書類を出しに行っただけで、冷たい対応を取られた子もいるのでどうにかして欲しい。私自身も、奨学金について聞きたいことがあっても、足を運ぼうという気になれない。	学生課の窓口対応の改善について、担当課長を呼び指導しました。職員の資質能力の向上については、Osaka Ohtani Vision 2025に基づきSD活動の充実に取り組んでいきます。	事務局長
	50	「令和元年度自己点検評価書」にいくつかリーダーズトレーニングのことが記載されているが、リーダーズトレーニングは、学生課が内容を考え開催・提供している行事ではなく、主に、企画・運営をしているのは学生の委員会であることから、学生課の協力を受けてはいるものの、学生が主体となって取り組んでいるということを付け加えてはどうかと感じた。	自己点検評価書の記載内容では、分かりにくかったかもしれませんが、リーダーズトレーニングについては、学生課と学生委員との間ですり合わせをしながら企画していくものであり、主体は学生委員であると思っていますので、今後も、積極的に企画を出してください。また、別の設問で、現在はコロナ禍のため、部員同士のコミュニケーションが不足していることから、オンラインを活用した活動の仕方・コミュニケーションの取り方等のスキルを学ぶことが求めているとの意見がありました。今後は、オンラインを活用する等、今までとは異なるリーダーズトレーニングの在り方についても検討していきたいと考えています。	学生部

【学修環境の整備について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q6 校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、休憩スペース等は、適切に整備され、利用しやすい快適な教育研究環境になっていると思いますか。	51	図書館の蔵書の多さはとてもありがたい。席も多いので勉強しにいきやすい。食堂などは、コロナの影響もあるが、座席が足りない。そして、Wi-Fiが使えないので、とても困る。Wi-Fiが使える教室で遠隔授業を受けた生徒が、三人ほどしかその教室にいないにもかかわらず、一人しか繋がらないという話も聞いている。タニワやzoomを活用が当たり前になっているからこそ、いち早く、食堂、Wi-Fi有教室、休憩スペース各所のWi-Fiを使いやすくしてほしい。	コロナ禍となり、遠隔授業と対面授業が併用になると、大学内でのWi-Fi環境がとても重要となってきます。その認識から、昨年来教室や休憩スペース等に順次Wi-Fi設備を整備しています。全体からすると、まだ足りていないかもしれませんが、順次整備していきますので、よろしくお願いします。	学長
	52	校舎は、教室によってエアコンの設備の無い部屋やスクリーンやテレビが十分に配備されていないところがある。また、机と椅子の間隔が狭い教室や身体的に窮屈な席もあり、集中して授業を受けづらい環境がある。図書館は、閲覧したい本や論文雑誌がない事が多い。蔵書数は平均して多いとのことだったが、分野によってはまだまだ不足している。より良い学習環境を構築し研究に資するためには、的確かつ早急な対応が必要であると思われる。総合グラウンドについては、新体育館(24号館)建設に伴い以前より縮小してしまっている。グラウンドを必要とする課外活動団体は多くあり、拡張してほしいとの声はよく耳にする。グラウンドを使用する課外活動団体数に対してグラウンドが小さいといえるため拡張または、新総合グラウンドの整備を求めたい。	古い校舎は、もともと女子大仕様であったため、机と椅子が窮屈に感じるところがあるかもしれません。図書についても分野により偏りがあります。図書予算の中で、順次揃えていきますので、よろしくお願いします。新体育館建設により狭まったグラウンドについては、順次キャンパス整備を進め、学内に少しでも確保していく予定です。	学長
	53	コロナ前のパソコンの自習室は満席なことが多く、特に志学館の方が満席であることが多いので、少し台数を増やしてもらいたい。19号館にも自習室があるが、だいたい空きコマでパソコンを利用するので、授業の教室に行きやすいところで利用したい。コロナになってWi-Fiが使える教室があるのはZOOMの授業が受けやすくてとても便利である。また、個人的には、ピアノの台数を増やしてほしい。1人用の方も、複数人の方も両方埋まっていることが多かったので、増やしてもらえるとピアノの練習がしやすい。	パソコンについては、今年度の1回生からパソコン必携としたことから、情報処理演習室の在り方（そもそも情報処理演習室が必要なのか）について検討しているところだ。そのため、パソコンの台数を増やすことより、むしろ、学内のどこにいてもWi-Fiがつながる環境を整備していく方向で検討をしています。また、ピアノの台数を増やすことができるかどうかについては、もう少し検討する必要があります。	学長
	54	もう少し休憩スペースを増やして欲しいです。	今回のキャンパス整備では、学生の皆さんの居場所作りもしたいと思っています。	学長
	55	過ごしやすい環境となっている。	ありがとうございます。大学は、感染予防対策を施した安全・安心な環境であることは勿論、学生の皆さんにとって心地良い環境であるとともに、学生同士のつながりを実感できる場、ここでしか体験できない機会を提供する場にしていきたいと思っています。	学長
	56	利用しやすいと感じる。しかし、学部専用の自習室が文学部にしかないと感じたため、人間社会学部にも20-307とは別の専用自習室が欲しい。	文学部に自習室があるのは、図書館とは別に多くの図書を置いているためです。今後はラーニングcommonsを整備し、勉強できる環境を整えていく予定です。	学長
	57	校舎、体育施設、情報サービス施設は適切に整備され利用しやすい。図書館は他の大学にも負けないくらい良い施設で快適な教育研究環境になっていると思う。残念な部分は休憩スペースが少なく食堂が主な休憩スペースになっているところである。大学の休憩スペースは志学館の1階だけのように思う。	現状では、教室は授業を受けるところ、食堂は食事をするところというように、エリアごとで機能が限定的であることから、今後、キャンパス整備を計画する中で、学生の皆さんの利便性も考慮しながら、第1体育館をリノベーションする形で、commonsとしての様々な機能を兼ね備えた図書館や食堂を建設したいと考えています。	学長
	58	授業の関係で1号館から22号館まで移動の時があるのでもう少し移動の面で整備されていれればと思いました。	No.103で対応	薬学部
自由記述 その他、学修環境の整備について、気づいた点等があれば記入してください。	59	ピアノの台数を増やしてほしいです。1人用の方も、複数人の方も両方埋まっていることが多かったので、増やしてもらえるとピアノの練習がしやすいです。	No.53で対応	学長
	60	トイレが汚いところが多くて残念である。また、荷物を掛けるフックがないところが多くて荷物の置き場に困るので設置してほしい。	トイレの改修については、キャンパス整備においても、優先度が高いものであると認識している。なお、荷物をかけるフックの設置については、早急に対応したいと思います。	学長
	61	コロナで食堂が椅子も減り仕切られているが、中にはその意図に反して椅子を移動させて集まり、感染対策になっていないだけでなく、他の学生も利用しにくくなっている。また、多くの学生が利用する、机や食堂のテーブルの消毒等の感染対策をもっとしてほしい。	食堂等は皆で使う空間ですから、ルールを守って使用してください。教室の机や椅子、食堂についてはコロナ禍となってからは必ず消毒を行っております。	学長
	62	図書館1階の読書スペースの照明が目が悪く感じる。2階の自習スペースと比べると、本が非常に読みにくいと感じる。 20号館にも室内の休憩スペースがあったら、もっと快適に過ごせるのではないかと感じる。	図書館1階の読書スペースとはキャレルのことかと思います。キャレルはあくまで一時使用のための場所なので、暗いようであれば、面倒でも明るい閲覧室に移動してください。 休憩スペースを20号館に作る計画は今のところありませんが、別の場所に用意する予定です。	学長

【学生の意見・要望への対応について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q7 学生による授業評価アンケートや学生満足度調査等の結果は、学修支援や学生生活、学修環境の改善に反映されていると思いますか。	63	去年の課題の多さや期限への不満など、積極的に反映されている部分があると感じる。ただ、通年科目でない限り、一つの授業に対する要望を書いても、それが反映されているかどうか実感できない。アンケートを第7回ぐらいの中間で実施しないとあまり意味がないように感じる。	学生による授業評価アンケートは、コロナ禍のため、WEB上で実施されていることから、15回目の授業終了後よりも早い時期に実施することも可能であるかもしれないので、実施時期について検討したい。また、学生の皆さんが、アンケート結果が授業の改善に反映されていないと感じているのであれば、その意見を真摯に受け止め、前期分の調査結果を踏まえて改善に努めるように教員へ説明したい。	教務部
	64	思わない。書いても次に同じ先生の授業を受けたら変わっていないということもあったイメージなので反映されているなと感じたことはない。周りにはアンケートに回答しても改善されないから答えないとやっている学生も多く見かける。		
	65	学修支援や学生生活、学修環境の改善にある程度は反映されている事実はあるが、実感は正直なところほとんどない。学生間代表者会議や学生満足度調査、授業評価アンケートなどで得られた意見は、実現可能なものに対する対応だけでなく、実現不可能な意見に対してもきちんとしていく必要がある。具体的には、なぜその意見を実現することが難しいのかといった理由を学生が認識できる所で示していく必要がある。学生としては、せっかく意見を書いてもそれに対する対応が十分でないと、意見を真面目に書かなくなってしまう。学生生活を送っている中で、「どうせ意見通らないよな、無理だよな」という声を聞く。すべての意見を実現するのは難しいとしても、反応することは大切だと感じる。	授業評価アンケートの回答や意見を踏まえ、毎年授業担当教員が自己評価し、改善に努めています。アンケート結果や評価については学内限定ではありますが、公開しています。今後、公開についてわかりにくいという声がありましたので、公開時期等を伝える方法を検討します。	教務部
		学生代表者会議を一年に二回、学生のメンバーを変えて行う方がいいと感じました。学生と直接の意見交換の場を増やし、リアルな声を聞くことで、より効果的に改善に取り組むことができるためである。	学生の皆さんの声を聞く機会は、学生代表者会議の他に、学生教育改善会議を設けています。前者は大学の運営全般に関して、後者は授業改善にテーマを絞って意見を聞いています。こうした会議の場だけでなく、学生の皆さんのリアルな声はできるだけ聞きたいと思っていますので、何かあったら学長までお知らせ下さい。メールでも結構です。	学長室
	66	あまり感じられません。	アンケートについては、アンケート自体をどう受け止めて改善していくか等、担当教員による自己評価を行う体制をとっていますが、教員によって改善の程度は、さまざまです。学生にとっては授業が改善されていないと受けとめられているということについては、改善に努めていきたいと思っています。	教務部
	67	授業評価アンケートに関しては、どんな意見が出てどう改善されたのか半期の授業だけではわからない。	ほぼすべての講義においてアンケートを実施し、アンケート結果を踏まえて各教員が工夫しながら改善に取り組んでいます。数年前から授業評価アンケートの結果については、学内のネットワークのみではありますが見られるようになっており、前期分は10月、後期分は3月末に公表しています。	教務部
	68	大きくは変わっていないと感じる。授業評価アンケートに関しては、提出後、その授業が変わっているか、担当教員が違う工夫を凝らしているのかを知る機会がほとんどないため、学生からは改善されているかが分からないのではないかと感じる。	数年前から授業評価アンケートの結果については、学内のネットワークのみではありますが見られるようになっており、前期分は10月、後期分は3月末に公表していますので、履修登録の参考にしてもらいたいです。なお、結果の公表については、オリエンテーションにおいて、学科からも紹介していますが、公開方法について検討します。	教務部
69	学生による授業評価アンケートや学生満足度調査の結果は学修支援や学生生活、学修環境の改善に反映されていると思います。特に感じたのがこのコロナ禍で授業が大幅に変わり去年はややこしいところが多々ありましたが今年はそれらが改善され学生から多く意見があったと思う授業評価アンケートや学生満足度調査を参考にしてコロナ禍の授業の対策がされているなと思いました。	学生のみなさん、教職員に協力いただきながら、今後も引き続き、授業内容方法の改善に努めていきます。	教務部	
	学生への各種調査の目的は、学生個々の学修状況を把握して指導や励ましに活用するほか、教育方法の改善を図っていくことが目的です。今後もぜひ調査にご協力をお願いします。	教育・学修支援センター		
70	薬学部には反映されていないと思います。	アンケートについては、アンケート自体をどう受け止めて改善していくか等、担当教員による自己評価を行う体制をとっていますが、教員によって改善の程度は、さまざまです。学生にとっては授業が改善されていないと受けとめられているということについては、改善に努めていきたいと思っています。	教務部	
自由記述 その他、学生の意見・要望への対応について、気づいた点等があれば記入してください。	71	学生との意見交換を匿名でやり取りできる場所があると、効率的にリアルな学生の意見を集めることができると思った。	意見を出せる場を作ることについては検討したい。なお、匿名で意見交流できるものとして、学部によっては目安箱のようなものをすでに設置しているところがあります。しかしながら、匿名による意見については、リアルな学生の意見を集めることができる反面、内容の真意について、本人に確認することができないことから、大学側が確認した内容とのすり合わせができず、良い面ばかりではありません。学生の皆さんの不利益になることは絶対にしないので、大学もしくは直接学長宛でも構わないので、意見は意見として寄せてください。	学長

【単位認定、卒業認定、修了認定について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q8 シラバスに記載されている評価基準等については、わかりやすく、適切に定められていると思いますか。	72	とても具体的に、数値として評価基準を書いている人もいれば、たまにアバウトな人もいますので教員によるとしか言えない。五段階評価の基準は、基準による違いを書いてくれるととてもありがたい。	シラバスの記載の仕方については、教員によって多少差があることは事実であると思うので、機会があるごとに教員にはその点を説明し、学生の皆さんに分かりやすいシラバスを作成していきたい。	文学部 (日本語日本文学科)
	73	評価基準等については、わかりやすく、適切に定められていると思う。しかし、近年はコロナ禍により対面授業からオンライン授業に切り替わることがあり、シラバス通りに行われないことがある。オンライン授業に切り替わった場合の評価方法や授業内容を記載して頂けると助かる。	評価基準については、シラバスに適切に記載されているが、コロナ禍で対面授業から遠隔授業に切り替わった場合は、予定していた授業内容から変更せざるを得ないことが科目によってはあります。その場合は遠隔授業の中で改めて評価方法や授業内容の変更点を説明していくようにします。	文学部 (歴史文化学科)
	74	思います。	今後もわかりやすい表現で対応していきたい。	教育学部 (幼児教育専攻)
	75	わかりやすく示されている。	今後もわかりやすく示していくことに努めたい。	教育学部 (特別支援教育専攻)
	76	そう思う。分かりにくいと思ったことは特になかった。	コメントをありがとうございました。人間社会学科としても、全学の方針に基づいて、今後も、よりわかりやすいシラバスの記載、とくに学生の皆さんが気にしている評価基準についても、可能な限り、詳細に記載していくよう心がけていきたいと思っています。	人間社会学科 (人間社会学科)
	77	評価基準は学科に合わせた内容になっていると感じ、適切に定められていると思います。またシラバスにも沿った内容で予習などを行いやすいと思います。	履修者の学修は、授業毎にシラバスへ記された学修テーマの予習や復習が欠かせません。今後ともスケジュール通りに授業を展開することを心がけます。	人間社会学科 (スポーツ健康学科)
	78	文章自体は難しくなっていますが、適切に定められていると思います。	ご意見ありがとうございます。シラバスに記載されている評価基準等については、引き続き適切に定めるようにしてゆきたいと思っています。また、文章の難しい点についても今後改善に努めたいと思っています。	薬学部
	自由記述 その他、学生の意見・要望への対応について、気づいた点等があれば記入してください。	79	一科目あたりの予習・復習が合計で3時間求められているが、現実的に実現不可能である。私の場合、前期は一週間に16科目履修したが、それだけで48時間の予習・復習となる。到底実現可能な数字ではない為、現実的な数値目標の設定が求められると感じた。	文部科学省（大学設置基準）によって、1単位の単位修得に必要な学修時間が定められており、例えば、講義科目であれば、15時間の授業時間と30時間の予習・復習時間で合計45時間が必要であると定められている。なお、今年度から、シラバスに予習・復習にはこんなことをやってほしいという内容を記載するようにしたので、それらも活用して予習・復習に取り組んでほしい。
80		難しい授業であまりこちらが理解できていないにも関わらず課題などが難しく単位の取れないような授業があります。	分からない内容があれば担当教員に当面またはメールで質問して解決してください。学修に関することなど一人で悩んでいる場合はゼミ担当に相談して一緒に解決に向けて取り組んでください。	教育学部 (学校教育専攻)
81		シラバスに評価基準が示されているが、どの程度平常点があって、テストでどのくらい点数が取れたのかわからないままなので、フィードバックがあると自分がどの程度の知識が身についたのか把握でき次の学習につなげることができる。	試験の得点について、開示はされていないので、個別に教員へ問い合わせてください。自分の間違っていたところを把握することで、今後の課題等を確認することができます。	教育学部 (特別支援教育専攻)

【教育課程及び教授方法について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q9 各学科の カリキュ ラムにつ いては、 学びたい 科目が設 定されて います か。	82	学びたい科目があっても、教職や必修科目と被っていてとれない。日文の授業と教職の科目が被りすぎているうえに、前もって一回生、二回生でとれないのも負担である。三、四回生での負担が大きい上に、取りたかった授業を受けられないまま、卒業することになってしまう。	どの免許を優先して取得するかにもよって、授業の取り方は変わってくると思いますが、ゼミ担当の教員や教務委員に状況を相談しながら、計画的に履修してください。時間割についても、できる限り重複しないように努めます。	教務部
	83	概ね学びたい科目は設定されている。しかし、資格や免許状を複数取得しようとする、履修したい科目を取ることができないことが多い。CAP制との兼ね合いから自由が利かないことがある。そういった学生は少なくないと感じるため、授業数を増やすなどの対策で学習の環境を整えて頂けると助かる。	どの免許や資格を優先して取得するかによって、授業の履修は異なります。CAP制はみなさんの学修時間を確保するために必要な制度です。4月に行われる教務委員の履修相談を活用いただき、4年間の学びを相談ください。	
	84	設定されていると思います。	引き続き、履修状況等を踏まえ、カリキュラムを検証していきます。	
	85	SPIなど自分でやらないといけなければ自分一人じゃ解けないのでそういうのをやる授業かも欲しいなと思います。もっと教授で役立つ科目が欲しいです。	共通教育科目のキャリア教育科目にて授業が設定されています。授業以外にも教職教育センターやキャリアセンターにて外部講師を招いての対策講座がありますので、活用してください。	
	86	専門的な学習が多く、学びたい科目もたくさんある。	引き続き、履修状況等を踏まえ、カリキュラムを検証していきます。	
	87	設定されている。ただし、学びたくても時間が被っていて履修ができないという授業もあったため、履修登録で頭を抱えている学生もたくさんいるのではないかと感じる	履修登録の際に、各学科の教務委員（教員）による履修相談を行っている。例えば、授業が重なって取れない科目がある等の意見を寄せてもらうことで、今後の時間割に反映し、すこしでも改善につながる可能性があるため、ぜひ、相談してください。	
	88	スポーツ健康学科のカリキュラムには建学の精神と教育理念に則った人格形成を行う科目と外国語コミュニケーション能力を育成する科目、多様な教養を身につけさせる科目、社会人に必要な知識やスキルを身につけ、自身にあった職業選択につなげる科目がありスポーツ指導者や保健体育教員になるためにはとても必要な科目が沢山あり意欲的に学ぼうと思える。	意欲的に学べる科目が設置できているという意見を受け、今後も学生の学びに応答しながらカリキュラムを検証します。	
	89	しっかりとありました。	引き続き、履修状況等を踏まえ、カリキュラムを検証していきます。	
Q10 授業内 容・方法 は、きめ 細やかな 少人数教 育を行っ たり、学 生参加型 のアク ティブ・ ラーニ ング（グ ループ ワークや ディス カッシ ョン等） を活用 する等、 工夫を こらした ものとな っている と思いま すか。	90	グループワークはかなり多いと感じる。学生主体でも新たな学びに繋がる授業もある。教員側から一方的に話すのではなく、まず自分たちで教材に向き合ってから、教員と共に読み進めていくという、学生が考える時間を与える工夫された授業だと感じるものもある。	前向きな評価をいただき、大変にありがたい思いで受けとめています。講義の工夫に関しては、今後も、様々な方向性を検討しより充実した講義実践に努めたいと考えています。そして、教員と学生が共に歩みを進めていく学科になることを目指していきたいと考えています。	文学部 （日本語 日本文学 科）
	91	少人数教育やアクティブ・ラーニングを意識した授業は多いと感じた。特に今年もコロナ禍でオンライン授業や対面授業が切り替わるなどイレギュラーな状況ではあった。しかし、zoomを利用したグループワークや、tani-WAを利用したディスカッションもあり充実した内容だったと思う。	ゼミなどによる少人数教育やアクティブ・ラーニングを重視した授業が学生から評価を得ているので、今後もコロナ禍で遠隔授業となっても、教員と学生、学生間で互いに学び合うことができるグループワークやディスカッションを取り入れ、気づきや学びが深まるような教授法を工夫していきます。	文学部 （歴史文 化学科）
	92	先生にはよるけれど、比較的グループワークは多かったです。	さらにグループワーク、対話的な授業ができるように専攻全体で共通理解を進めていきたい。	教育学部 （幼児教 育専攻）
	93	授業によります。基本的には一方的に話しているのを聞く授業のように感じます。	教育学部教員担当の授業については、さらにグループワーク、主体的で対話的な授業ができるように共通理解を進めていきたい。	教育学部 （学校教 育専攻）
	94	オンデマンド型になり一年次と比べるとグループワークやディスカッションは減ったが、少しずつ対面になり前後左右でのディスカッションができるようになったので良かった。	状況が改善されたら、可能な範囲で対面授業を増やしていきます。	教育学部 （特別支 援教育 専攻）
	95	そう思う授業とそう思わない授業がある。そう思わない授業の場合、対面で授業を行った意味を見出せない、オンライン上やオンデマンドで授業をやった方が良かったのではないかと感じたことがあった。	今年度の学修行動調査によると、「学生の意見発表」「学生同士の議論」については、昨年度、コロナ禍1年目にあって、あまり授業のなかでそのような機会を設けられていなかったが、今年度ではコロナ禍前と同様くらいには復活しているという結果が出ています。今後は、対面・オンラインの別を問わず、教授内容のより深い理解を目指して、アクティブ・ラーニングのさらなる実践に努めていきたいと思えます。	人間社会 学部（人間 社会学科）
	96	スポーツ健康学科の授業ではグループワークやディスカッションを使って行うことが多く工夫もされていると感じます。例としてグループワークをした班で模擬授業を作成したり、学生の前で発表をおこなったりと将来につながるような工夫が施されている。	演習や実技系科目は、アクティブラーニングにより学修効果を一層高められます。大教室による多人数授業でも、能動的に前向きに受講できるよう工夫します。	人間社会 学部（ス ポーツ健 康学科）
	97	コロナの影響を受け、ディスカッション等を行っている科目が少ないことは残念ではあるが、授業内容については、結論を出すのが難しい課題や意見が対立しやすい課題を与えられたsgd（小グループ討論）等を活用しており、工夫をして取り組んでいると思う。	コロナの影響でアクティブ・ラーニング、グループディスカッション等ができていないことについては、教員側も残念に思っています。なお、薬学部においては、今後、研究室に配属されていく中で、密なグループ学習等をする機会は増えます。また、薬学部を含めた他学科のアクティブ・ラーニングの実施状況については、積極的に取り組んでいる学科となかなか取り組みにくい学科があるように見受けられることから、今後、更なる改善をしていかなければならないと感じています。	薬学部

質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
自由記述 その他、教育課程及び教授方法について、気づいた点等があれば記入してください。	98	学部学科学年が入り混じった授業だと、少数派の学生が発言しにくい時もある。また、同じ学部の子たちで「なれ合い」になる、有意義な時間にならないものもあるので、特に人数が多い授業でのグループワークでは、反対に学部学科を混ぜる、グループワークの型（議題について話し終わったら私語ではなく、次の議題か感想を述べあう、など）をつくるなどの工夫をして欲しいと感じた。	単純なグループワーク形式に対する指摘は真摯に受け止め、今後の講義の中で改善を加えていくよう、学科会議等を通じて、共通認識としていきます。私語の問題に関しては、教員の指導によるものだけではなく、個々の自立した存在として学生側の中からも声を上げて載きたいと感じる面もあります。集団における自浄作用を発揮させる手法を獲得するのも学びの一環ではないでしょうか。	文学部 (日本語日本文学科)
	99	ピアノの授業をもっと取りやすくしてほしいです。ピアノは好きな曜日を選べるのではなく、クラスごとに取れる曜日が決められているのですが、他の必修の科目やコースの科目と被ってしまい、4年生になるまでピアノⅡAⅡBをとることが出来ませんでした。授業が被ってしまっている人にはほかのクラスの曜日にも入れるようにしてほしいです。ⅢAⅢBⅣAⅣBも受講したかったのにできなかったのでも少し疑問に思いました。もう少し柔軟に対応してほしいです。	これについては専攻としても要望していますが、難しい現状もあるのです。その理由はピアノの授業は少人数で実施するため、希望者全員が履修できるようにするためには非常勤講師のさらなる採用が必要となるためです。	教育学部 (幼児教育専攻)
	100	プリントを配られたら話がすぐ始まってどこかわからない、専門用語すぎて何を言っているかわからないなどの問題が多くあります。もっとどこをやっているのかとか言葉の意味から噛み砕いて教えて欲しいなと思います。司書の授業がひどい。	遠隔授業の場合はメールやtani-WAの各授業のコースの掲示板など、対面ではオフィスアワーの時間に担当教員に質問できる機会があります。わからないことが解決されないことは望ましい状況ではありませんので、まずは担当教員に質問をしてください。	教務部
	101	私自身いろいろなことを知りたいと思ったが、教育学部は取ることができない科目などがあり残念に思ったことがあった。学習が追い付かない等様々な意見があると思うが、免許・資格等に関係のないような科目や分野を超えた学習もしたいと思った。	学部を超えて授業を履修することはなかなか難しいが、実習・演習の授業ではなく講義形式のものであれば、他学科の学生でも単位取得はできないが聴講することは可能である場合がありますので、担当教員に相談してみてください。	教育学部 (特別支援教育専攻)
【その他】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
その他		教職教育センターについて、先輩・友人から「教職支援課の対応が厳しく、気軽に行けない」「教員採用試験の過去問題集等の取り扱い方法が厳しい」「飲食禁止となっているが、水分補給のため、飲み物は許可してほしい」等の意見を聞いた。もう少し対応を緩和してもらえると使いやすくなるのではないかと思った。	Q2における回答と同様に、教職支援課の窓口対応については、課長を通じて担当者へ指導していきます。また、SD活動の充実にも取り組んでいきます。	事務局長
	102		教職教育センターは学生の皆さんが快適に使っていただけるよう一定のルールを定めています。使用ルールにはそれぞれ理由があり、これまでは学生オリエンテーションや実際に部屋を訪れた際に説明していましたが、コロナ禍の中で説明が不十分であったことは否めません。今後、学生のみなさんの便益を最大限尊重しつつ、多くの人々が利用してもらえるよう、利用の際のルールの再検討もおこない、周知に努めます。また、学生のみなさんへの対応や言動については誤解を招かないよう最大限注意を払います。教育実習や介護等の体験など学校現場での実習にあたっては、社会人としての常識的な言動が求められることを丁寧に伝えていきますので、その点についてはご理解ください。	教職教育センター
	103	授業の関係で1号館から22号館まで移動の時があり、移動距離が長いので、次の授業の準備ができなかったり、遅刻してしまうこともある。移動距離が短くなるように時間割を設定してほしい。	休憩時間については、以前は10分間であったものを移動時間等も考慮し、現在の15分間へ伸ばした経緯があります。しかしながら、薬学部については授業によっては延長することもあることから、教授会に意見を反映させ、改善するようにします。また、薬学部は1科目で受ける人数も多いので、それに対応できる教室が少なく、偏った教室を使用していることも、要因の1つであると考えられます。そのため、キャンパス整備の中で、大教室の拡充についても検討していくことで、今後、このようなことが無くなるようにしていきたい。	薬学部
	104	「Moodle」「Moodle2」「tani-WA」「凜Web」といった様々な支援システムがあるが、大切な情報がどこに入っているのか管理するのが困難になり、見逃してしまうこともあるので、改善してほしい。	複数の学修支援システムの使用による問題点については、コロナ禍前から検討課題となっています。しかしながら、それぞれの学修支援システムの目的が異なるので、一本化するのには難しい状況です。引き続き、学生の皆さんが大事な情報をきちんと受け取れる仕組みを検討していきます。	教育・学修支援センター